

研究業績等に関する事項

著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書(欧文)) 1.				
(著書(和文)) 1. 『華僑・華人事典』 2. 『改訂新版 世界史小辞典』 3. 『5分野から読み解く現代中国』 4. 『新版 5分野から読み解く現代中国』 5. 『近代中国人名辞典修訂版』 6. 『近代中国の新疆統治-多民族統合の再編と帝国の遺産』	共著 共著 共著 共著 単著	2002年 2004年 2005年 改訂2009年 2016年 2018年 2022年	弘文堂 山川出版社 辞典編集委員会編 晃洋書房 晃洋書房 霞山会、国書刊行会 慶應義塾大学出版会	木下恵二担当項目: 「黄崇英」「邱菽園」「辜鴻銘」「黄藝蘇」「洪門籌餉局」 可児弘明・斯波義信・游仲勲編 木下恵二担当項目「政治協商会議」「中国民主同盟」 辞典編集委員会編 第2章「中華人民共和国史」(24頁～49頁) 豊かで強い国家を建設するという課題を中華人民共和国がいかにかに追求してきたか、その過程でいかなる挑戦をし、いかに失敗し、成功してきたかについて論述した。 執筆: 一谷和郎、木下恵二、加茂具樹、中岡まり、唐亮、松田康博、唐成、李旭、佐野淳也、段瑞聡、家近亮子、常杪、阿南友亮、増田雅之、青山瑠妙 第2章「中華人民共和国史」(22頁～46頁) 3を全面的に書き直し、2012年の習近平政権の誕生までを、毛沢東時代の30年、改革開放の30年としてまとめ、習近平政権の10年を新たな時代の模索の10年として位置付けた。 執筆: 一谷和郎、木下恵二、中岡まり、唐亮、松田康博、唐成、佐野淳也、段瑞聡、染野憲治、家近亮子、阿南友亮、加茂具樹、青山瑠妙 木下恵二「徳王」(94頁～95頁) 徳王の内モンゴル自治の追求と日本による傀儡化を中心に、その生涯について紹介した。 近代中国人名辞典修訂版編集委員会編 清帝国から中華人民共和国へと移り変わる20世紀前半の中国の多民族統合の再編を新疆の政治状況を中心に検討し、そこに継承されている「帝国の遺産」を明らかにした。
(学術論文(欧文)) 1.				
(学術論文(和文)) 1. 「中国の近代的变化とムスリム諸民族-1940年代の『新疆』における国民党の制度化とトルコ系ムスリムの反乱-」	単著	1994年3月	修士論文	中国が近代的に変容していく過程に、1940年代の国民党統治下で推進された制度化とそれに対するトルコ系ムスリムの反乱を位置づけについて論じた。(学位審査有)

2. 「中国国民政府の新疆統治-1942～47年-」	単著	1998年9月	『法学政治学論究』第38号	中国の国民国家への変容過程で、国民党・国民政府の民族統治方針には、中華世界観、特に大同思想が国民国家化を進めるための思想的資源として用いられた。新疆統治も同じ方針に基づいて行われ、物理的強制力と伝統的な地方有力者に依存した統治は、近代思想の影響を受けていた一部のトルコ系イスラム住民のナショナリズムと衝突した。やがて反乱者と連合政府を形成し譲歩政策を採るも、いかなる統合の基盤も築けず、統治は失敗した。（査読有）（261頁～296頁）
3. 「楊増新の新疆統治-伝統的統治と国家主権」	単著	2001年3月	『法学政治学論究』第48号	辛亥革命後新疆の統治者となった楊増新は、新疆における中国の国家主権維持と、「官」が「民」に対して過度に介入せず、「善政」をおこなうという伝統的統治の維持の両者を同時に追求した。この統治は新疆に一定の安定をもたらした。しかし彼は、トルコ系ムスリムの本来反中国的性格をもっていなかった近代化への動きに対し、対外的国家主権維持の観点から介入し、その結果、その運動参加者を反中国へと向かわせる契機を作った。（査読有）（127頁～156頁）
4. 「中国の愛国主義教育」	単著	2007年 改訂2012年	晃洋書房、家近亮子・段瑞聡・松田康博編『岐路に立つ日中関係』	中国の愛国主義教育の目的、内容、変遷と、「反日」との関連について論じた。目的は、中国共産党による統治の正当化と国家への献身を奨励することである。そのための感情的基礎として、過去の繁栄に対する誇りと、近代の侵略に対する反発とが教えられる。後者の強調が1989年の天安門事件以後際立った。その過程で、日本は敵役として積極的にとりあげられた。反日感情の拡散、固定化は愛国主義教育の副産物である（査読無）（111頁～133頁）
5. 「1930年代新疆盛世才政権下の『ソ連型』民族政策とその政治的矛盾」	単著	20009年12月	『史学』第78巻第4号	盛世才政権はソ連の民族政策をモデルとした民族政策を導入し、それによって新疆に初めて、各民族のアイデンティティを通じて新疆、「中国」への帰属意識を育成するというネイション形成の経路を作り上げた。しかし条件が整わない中で、ネイション形成と国家建設の緊張関係を考慮せずに、集権化を追求することによって、民衆の「参加」「動員」を阻害したという点で、その施策は限界を有していた。（査読有）（31～59頁）

6. 「新疆における盛世才の統治と粛清-1937年～38年」	単著	2011年6月	『法学政治学論究』第89号	1937、38年の盛世才による大規模粛清は、従来の民族政策を破綻させた。この粛清はクーデタに対する盛の危機感と、中国の社会主義勢力の代表として、スターリンに認められ、ソ連の力を借りて日本に対抗しようとした彼の政治目標に発していた。ソ連の力を背景に監視と物理的暴力の横行する社会で、南疆のウイグルは抑圧体制下に置かれた。第二次世界大戦によってソ連の影響力が後退すると、各地で矛盾が噴出し始めた。(査読有) (1頁～24頁)
7. 「新疆における盛世才政権の民族政策の形成と破綻」	単著	2012年4月	『アジア研究』第58巻第1・2号	盛世才はソ連にならって、各民族文化の尊重、発展を認める民族政策を採ったが、それが各民族に自治的に行われることを認めなかった。民族政策は、ウイグルの「改革派」から一定の支持を受けたが、教育と宗教問題の自治をめぐる衝突した。盛世才は自身の政治目標と野心を追求して、スターリンの粛清を積極的に模倣し、その結果、民族政策は破綻した。南疆のウイグルは、ソ連後援の省政府を打倒してくれる外部の力に期待するようになった。(査読有) (18頁～32頁)
8. 「中国における多民族統合の再編と新疆統治」	単著	2021年6月	博士論文	20世紀前半の新疆の政治状況の分析を通じて、中国の近代的再編の有り様を明らかにした。(学位審査有り)
(紀要論文) 1. 「1940年代国民党による新疆統治の論理- 吳忠信と張治中を中心に」	単著	2015年3月	『常磐国際紀要』第19号	1944年に始まる国民党・国民政府の新疆統治の論理を、相次いで省主席となった吳忠信と張治中の言説を通じて明らかにした。吳と張の主張の重要な分岐は「自然な同化」を可能と考えるかどうかにあった。吳忠信を始め、多くの国民政府の指導者は漢族の文化のもつ同化力、求心力を信じた。他方で、張治中を始め、そのような文化的な求心力を信じず、新疆の非漢族を漢族とは別の民族として政治的に対等に遇することによって、国家に制度的な求心力をもたせようとした人々も少数ながらいた。実際には、この二つの論理がせめぎ合いながら、新疆統治がおこなわれた。(査読有) (49頁～68頁)

2. 「建国初期中国の民族政策考-マルクス主義者民族論の系譜から」	単著	2016年3月	『常磐国際紀要』第20号	中国の民族政策の柱であった「民族区域自治政策」がいかなる面においても民族自治ではなく、漢族の主導のもとに現地諸民族と漢族との協力関係を築くための政策であり、その地域の諸民族に中央政府が特別な配慮と文化的尊重を与えることを象徴するものであったことを政策文書と中央の指導者の発言から明らかにした。またこの政策が、レーニンの理念とスターリンの考えと実践の延長線上にあると論じた。この政策はレーニンの理念に対する信仰と毛沢東の戦略的思考によって維持された。(査読有) (175頁～191頁)
3. 「建国初期中国の新疆統治における民族と階級-帝国継承国家における国民形成と『帝国の遺産』」	単著	2018年3月	『常磐総合政策研究』創刊号	中華人民共和国建国初期の新疆統治政策を、三つの近代的統合モデルを分析装置とし、近代国家への再編における「中華帝国の遺産」の影響を意識しつつ論じた。中央政府が建国当初掲げた民族自治は、民族自決的統合を連想させるものであったが、地方レベルでは、社会主義イデオロギーに基づく国民的統合が追求された。それと同時に、漢族優越意識は漢族による「代行主義」と呼ぶうる指導様式を支えた。(査読有) (29頁～51頁)
4. 「1950年代における「新疆生産建設兵団と『先進』としての漢族」	単著	2019年3月	『常磐総合政策研究』第3号	建国初期新疆統治において、新疆生産建設兵団の設立を社会主義集団化のモデルであるとともに、「先進」としての漢族を象徴するものとして位置づけ、帝国継承国家としての中国の民族政策に一貫する論理がそこに表れていることを明らかにした。(査読有)
5. 「日本人中国語初修者のピンイン学習における母音表紙提示試案」	単著	2020年12月	『常磐総合政策研究』第6号	中国語を学び始める日本人学習者が、ピンインの母音表記の発音を学修する際に、より学びやすい方法を提示した。(77～87頁) (査読無)
(辞書・翻訳書等)				
1. 書評：毛里和子著『周縁からの中国民族問題と国家』	単著	2001年6月	『中国21』Vol. 11	237頁～244頁
2. 書評：吉澤誠一郎『愛国主義の創成 ナショナリズムから近代中国をみる』	単著	2005年3月	『中国研究月報』第685号	40頁～42頁
3. 書評：寺山恭輔『スターリンと新疆』	単著	2020年4月	『ロシア史研究』第104号	208～214頁
(報告書・会報等)				
1. 「建国初期中国の新疆統治における民族と階級-帝国継承国家における国民形成と「帝国の遺産」-	単著	2017年7月	『日本中央アジア学会報』第13号	55頁～56頁

(国際学会発表)				
1.				
(国内学会発表)				
1. 「新疆盛世才政権の民族政策-1930年代辺境における『中国』の近代的再編-	単著	2008年10月	日本国際政治学会分科会	
2. 「新疆における盛世才政権の民族政策の形成と破綻」	単著	2011年10月	アジア政経学会全国大会自由論題	
3. 「建国初期中国の新疆統治における民族と階級-帝国継承国家における国民形成と『帝国の遺産』-	単著	2017年3月	日本中央アジア学会2016年度大会	
4. 「近代中国の新疆統治」	単著	2022年12月	中国穆斯林研究会第40回定例報告会	
(演奏会・展覧会等)				
1.				
(招待講演・基調講演)				
1.				
(受賞(学術賞等))				
1.				

研 究 活 動 項 目

助成を受けた研究等の名称	代表, 分担等の別	種 類	採択年度	交付・受入元	交付・受入額	概 要
(科学研究費採択)						
1.						
(競争的研究助成費獲得(科研費除く))						
1.						
(共同研究・受託研究受入れ)						
1.						
(奨学・指定寄付金受入れ)						
1.						
(学内課題研究(共同研究))						
1.						
(学内課題研究(各個研究))						
1.						
(知的財産(特許・実用新案等))						
1.						